



破壊的イノベーションの要求

令和6年3月24日

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

アメリカの全ての調べ尽くす。そしてそれに優れる自己現実を行う。これが破壊的イノベーションである。

アメリカは第2次世界大戦時とジャパンアズナンバーワンのときこれを行ったのである。日本はそれを得なかった。それが現実の相違を与えたのである。

破壊的イノベーションは、自己のソフト資産という理解を拡大させ、自己現実の創造を行うことなのである。

理解が欠如するなら、唯一他への追随に過ぎないのである。アメリカの有する創造性は、破壊的のバージョンである。

彼らの有する自己基盤が飛躍するのである。それら基盤は理解なのである。彼らの有する教育と大学環境においてもこれを支えるものである。

これらは自由経済と競争原理における世界における彼らの栄冠なのである。

これらは情報という基盤は現実を与える選択であることを意味する。

これらは自己の現実が未来を有するために、自らにおいて自己の未来を生み出す必要性なのである。

これは対米追従でない、新しい自己の姿なのである。

これらは自己の基盤の飛躍させ、自らの未来を創造することなのである。

これら未来という挑戦は、新しい希望という現実であるはずである。

